様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ７ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2014～2016
課題番号：２６５９０１０９

研究課題名（和文）日米同盟と日本医療保険制度の連動

研究課題名（英文）US-Japan Alliance and Japanese Health Insurance System

研究代表者
杉田　米行（SUGITA, Yoneyuki）

大阪大学・言語文化研究科（言語社会専攻、日本語・日本文化専攻）・教授

研究者番号：００２１６３１８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、東アジアにおける国際関係の変容と日本の医療保険制度の展開に連動性があるという仮説を検証することだった。この仮説を検証するために、1920年代の国際協調体制、1930年代後半からの大東亜共栄圏構想、連合国軍占領期における国際関係からの隔離、1950年代の日米同盟体制という日本を取り巻く国際関係の変容を、二次文献を中心に調査した。そして、その変容に連動する形で、日本国内に医療保険制度が形成されていったことを厚生省等の一次資料を用いながら一定程度検証することができた。

研究成果の概要（英文）：This study aims to verify a hypothesis that changes in international relations in East Asia has symbiotic relationship with the development of Japanese health insurance system. In order to verify this hypothesis, I have examines primarily secondary materials concerning the Washington System in the 1920s, the Greater East Asia Co-Prosperity Sphere, Isolation of Japan from the international community during the Allied occupation, and changing dynamics of the international relations during the 1950s. Then, I examined how these changes affected the development of Japanese health insurance system using primary documents and to some extent, succeeded in verifying my hypothesis.

研究分野：国際関係と医療制度の連動

キーワード：健康保険　国民健康保険　日米同盟

１．研究開始当初の背景

日本医療保険制度に関しては、海外ではあまり研究が進んでいないが、国内では多くの研究蓄積がある(佐口卓 1957，大内兵衛他 1961，川上武 1965，庭田範秋 1974，社会保障研究所編 1975，菅谷卓 1976，菅谷卓 1977，朝倉新太郎 1983，大野吉輝 1991，二木立 1994，杉山章子 1995，池上直己・J.C.キャンベル 1996，鍾家新 1998，横山和彦・田多英範編 1998，中静未知 1998，吉原健二・和田勝 1999 等)。従来の研究を精査すると、この問題は純粋に国内問題であり、官僚、医師会、関係学者、実業界など利益集団間の権力闘争によって日本の医療保険制度が展開していったという共通の認識が見られる。医療制度の展開において、国内政治過程は直接的に関与するもので、重要ではあるが、その下地を作り上げた国際的な要因に焦点があてられることは少なかった。

他方、第二次世界大戦後の日本の安全保障政策（日米同盟）に関しては、戦後最大の政治的争点である(大嶽 1988，植村 1995)。「吉田ドクトリン」や吉田の安全保障政策の評価をめぐる事例研究は多い(高坂正堯 1968，John Dower1979，Michael M. Yoshitsu1984，永井陽之助 1985，波多野澄雄 1989，室山義正 1992，北岡伸一 1994，猪木正道 1995，Katzenstein1996，田中明彦 1997，Heginbotham & Samuels1998，Berger1998，中西寛 1999，中島信吾 2006，楠綾子 2006 等)。

申請者はこれら二つのテーマを各々研究してきた結果、ほとんど無関係のように思われるこれら二つのテーマが、実はコインの裏表のような関係ではないかと認識するようになった。

申請者は日本の安全保障をテーマに *Pitfall or Panacea: The Irony of US Power in Occupied Japan 1945-1952* (Routledge, 2003 単著)222p や“Asian Nexuses: U.S. Relations with China and Japan in the Wake of the 9/.11 Terrorist Attacks,” in Caroline Rose and Victor Teo, eds., *The United States between China and Japan* (Cambridge Scholars Publishing, 2013 共著) , pp. 271-95 としてまとめた。また、日本医療保険制度に関しては,“Universal Health Insurance: the Unfinished Reform of Japan’s Healthcare System,” Mark E. Caprio and Yoneyuki Sugita eds., *Democracy in Occupied Japan: The U.S. Occupation and Japanese Politics and Society* (Routledge, 2007 共編著), pp. 147-77; 「1950 年『社会保障制度に関する勧告』の再検討」杉田米行編『日米の医療—制度と倫理』(大阪大学出版会、2008 年 編著）45-75 頁; "Japan's epoch-making health-insurance reforms, 1937–1945," *Japan Forum*, Vol. 25, Issue 1 (2013) pp. 112-33 等を発表してきた。これらの研究から、国際情勢の変遷が日本の医療保険制度の展開に大きな影響を与えているのではないかという着想を得たことにより、試論として以下にまとめた。「国際関係の視点からみた占領期の日本医療保険制度」『保健の科学』第 51 巻第 7 号（2009 年 7 月）441-45 頁；"Japanese Health Insurance Systems During the Allied Occupation from an International Affairs Perspective," in Olavi K. Fält and Juha Saunavaara (eds.), *Nation-Building, National Identity and the Wider World: Japan and Finland in Transition, 1945-1990*. (Rovaniemi: Pohjois-Suomen Historiallinen Yhdistys, 2010).これらの試論の延長戦上に、戦後日米同盟の形成と定着の理由を、国民皆医療保険を目指した日本政府の政策に求められるのではないかと思い至った。

２．研究の目的

本研究の目的は、第二次世界大戦後の日本の医療保険制度の形成・展開と日米同盟の形成・定着の間に有機的連関性がある、という仮説を検証することである。日米同盟の存在によって、軍事的安全保障や経済的にも潤った日本が、医療保険制度を充実させ国民・与野党の合意を高めていったからこそ、国内最大の懸案事項だった日米同盟関係を定着させることができたという仮説を、一次資料によって検証したい。本研究は、従来、全く別の学問分野だと考えられていた医療保険（社会保険）分野と外交・国際関係分野を融合させ、学際的融合による新しい分野を開拓する試みである。

研究期間内に第二次世界大戦後の 1945 年から国民皆医療保険成立の 1961 年までの時期において、医療保険制度の形成・展開と日米同盟の形成・定着の間に有機的連関性があるという仮説をたて、一次資料を分析して検証することを目標とした。研究期間内に以下の３点を明らかにしようとした。(1)日米同盟の形成で日本は具体的にどのような経済的恩恵を得たのか。(2)当該期に日本は国民皆医療保険の成立において、具体的にどの程度の経済資源を費やしたのか。(3)日米同盟をめぐる日本の政治状況や国会論争が、国民皆医療保険の制定過程にどのような影響を与えたのか。

二つの異なる学問分野を融合したことが特色・独創的な点であり、この研究成果は医療保険（社会保険）分野と外交・国際政治分野を融合する新たな学域設定の可能性を秘めている。戦後日本で、国民皆医療保険を確立すべきだという点では、国民の間にも、与野党間にも合意があった。その一方で、日米同盟関係の形成と定着に関しては、戦後日本国内の世論を二分し、国会でも大論争が繰り広げられた。日米同盟の存在によって経済的に潤った日本が、医療保険制度を充実させ国民・与野党の合意を高めていったからこそ、国内最大の対立点だった日米同盟関係を定着させることができたのではないか、という仮説をたて一次資料等を分析して検証する

ことである。

３．研究の方法
本研究の目的は、第二次世界大戦後の日本の医療保険制度の形成・展開と日米同盟の形成・定着の間に連動性があるという仮説を検証することである。そのためには以下の 2 点を行った。
(1)日米同盟と国際情勢との関連性という観点から、第二次世界大戦後の日本医療保険制度の形成・展開過程を再検討した。

(2)第二次世界大戦後、世界システムにおける日本の位相と、それが日本国内の占領政策・復興に与えた影響。
本研究では、二次文献調査⇒一次資料による実証研究⇒国内外レビュー⇒研究成果のとりまとめ、という順序で研究を進めていった。
　大阪大学には小生が所属する言語文化研究科以外にも医学研究科、経済学研究科、法学研究科、人間科学研究科、国際公共政策研究科、文学研究科等の研究科があり、医療保険制度、外交・国際関係、日本研究、アメリカ研究が行われている。しかも、大阪大学では、申請者もプログラム委員をつとめる大阪大学超域イノベーションプログラムを中心に、学問領域を超え、融合することの重要性が唱えられており、新学域の設定に挑戦する学問的環境も整えられていたので、積極的に活用した。

４．研究成果
　日米同盟の形成・定着過程と国内の医療保険制度の拡充の有機的連関性を検証することに成功すれば、医療保険（社会保険）分野と日米同盟といった外交・国際関係分野を融合し、新分野を確立する可能性が生まれる。戦後の混乱期から高度経済成長にいたるまでの時期に、日米同盟によって、日本は安全保障を確保して経済的恩恵を受けた。同時に、国民皆保険の確立等、福祉国家を一定程度進めた状況、つまり、大砲もバターも得た状況を、内政と外交の両側面を統合的に分析する新しい視点を得ることができるという期待が当初あった。
　実際に研究を進め、仮説を検証していった。両分野の間に有機的連関があることを、少なくとも、1920 年代から 1950 年代にかけては言えることが明らかになった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　2　件）
1．Yoneyuki Sugita, “The Yoshida Doctrine as a Myth,” *The Japanese Journal of American Studies*, Vol. 27 (June 2016), 123-43.

2. Yoneyuki Sugita, "'Fairness' and Japanese Government Subsidies for Sickness Insurances," *Japan Studies Review* Vol. XIX (2015), 85-114.

〔学会発表〕（計　5　件）
1．Yoneyuki Sugita, "US pivot to Asia and Japan’s Development Cooperation Charter," European Institute of Japanese Studies (EIJS) & GRIPS Development Forum Joint Seminar -Can Japanese Development Cooperation Tell us Something about Regional and Global Change?- National Graduate Institute for Policy Studies, Tokyo, 16 March 2017.

2. Yoneyuki Sugita, “Significance of the Senkaku Issues for Japan’s Security Policies,” Featured Panel, The Asia-Pacific Conference on Security and International Relations (APSEC) 2016, 8 December 2016, Nakanoshima Center, Osaka University.

3. Yoneyuki Sugita, “President Obama’s Pivot to Asia-Pacific and Japan’s Hedging Policies”9th Annual Congress of Asian Political and International Studies Association, 11-12 September 2015, Sunway Hotel, Phnom Penh, Cambodia.

4. Yoneyuki Sugita, “Origin of Yoshida Doctrine: Role of the United States,” The 9th International Convention of Asia Scholars (ICAS), 5-9 July 2015, Adelaide Convention Centre, Adelaide, Australia

5. 杉田米行「アメリカの医療制度の現状と改革の方向性」大阪大学大学院医学系研究科医療経済・経営学寄附講座 公開研究会「医療と経済」　大阪大学中之島センター，2015 年 4 月 11-12 日

〔図書〕（計　11　件）
1. 杉田米行著「世界における日本の地位と医療保険の変遷，1920 年代～1940 年代初期」杉田米行編著『アジア太平洋地域の複眼的分析：歴史と展望』（東京：明石書店、近刊）。

2. Yoneyuki Sugita, “Obama's Pivot to Asia-Pacific and Japan's Hedging Policies,” in Bart Gaens and Gauri Khandekar eds., *Japan’s Search for Strategic Security Partnerships* (Routledge, forthcoming in 2017).

3. 杉田米行「日本の「抑制された再軍備」の形成過程」西谷真規子編著『国際規範はどう実現されるか　複合化するグローバル・ガバナンスの動態』（京都：ミネルヴァ書房、2017 年 3 月）138-165。

4. Yoneyuki Sugita, Chapter 6 “The US Pivot to Asia and Japan’s Development Cooperation Charter,” in André Asplund and Marie Soderberg eds., *Japanese Development Cooperation: The*

Making of an Aid Architecture Pivoting to Asia (Routledge, December 2016), 90-103.

5. **杉田米行著「アメリカの医療改革―オバマケアにみる選択の自由とパブリックオプション」本間正明監修、松浦成昭・跡田直澄・河越正明編『医療と経済』（大阪：大阪大学出版会,2016）　443-58。**

6. Yoneyuki Sugita, Chapter 4 "The 1922 Japanese Health Insurance Law: Toward a Corporatist Framework," in Yoneyuki Sugita ed., *Social Commentary on State and Society in Modern Japan* (Springer, August 2016), 49-65.

7. **杉田米行「軍産複合体のアメリカとベトナム戦争」南塚信吾、秋田茂、高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史―アジアから考える』（京都：ミネルヴァ書房、2016）312-13。**

8. Yoneyuki Sugita, Chapter 1, "US-Japan Relations in transition: From Cold War to post-Cold War," in Yoneyuki Sugita ed., *Toward a More Amicable Asia-Pacific Region: Japan's Role* (Lanham, MD: University Press of America, 2015), 5-26.

9. Yoneyuki Sugita, "The Symbiotic Relationship between Japan's Status in the World and Changes in the Nature of Medical Insurances from the 1920s to the Early 1940s," in Yoneyuki Sugita ed., *Japan Viewed from Interdisciplinary Perspectives: History and Prospects* (Lanham, MD: Lexington Books, 2015), 21-39.

10. **杉田米行編『第二次世界大戦の遺産:アメリカ合衆国』（岡**山:大学教育出版、2015)。

11. Mayako Shimamoto, Koji Ito, and Yoneyuki Sugita, *Historical Dictionary of Japanese Foreign Policy* (Lanham, MD: The Scarecrow Press, 2015).

６．研究組織

(1)研究代表者

杉田　米行（SUGITA,Yoneyuki）

大阪大学・言語文化研究科・教授

研究者番号：00216318